



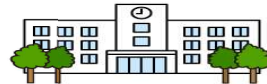
学校教育目標

校訓

刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、
たくましく自己実現していく生徒の育成～

自主・剛健・高雅

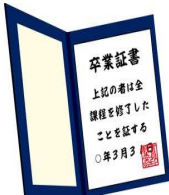


東金市立東金中学校 学校だより第52号

令和5年3月15日発行 文責：副校長 久我 和廣

卒業証書授与式での校長式辞から (一部抜粋)

さて、皆さんが中学校へ入学したのは令和2年、4月は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下であり、入学式は6月2日と未だかつてない状況の中での入学でした。世界中が未曾有の事態に直面し、日々変化する社会状況の中で、新しい生活様式となり、皆さんもそれまでとは違い、様々な対応と工夫が求められる中で中学校生活が始まり、特に1年生、2年生の時には、授業はもちろんのこと部活動や行事においても、急な変更をせざるを得ない状況の中、常にその時々でできることに皆でしっかりと向き合い、取り組み、日々を重ねてきました。



特に令和4年度は、規制を緩和する中で、最上級生として学校生活全般にわたりリーダーとして活躍し、東金中学校の新たな歴史の一ページを残しました。4月には、3年生となって初めて全校生徒が一同に会する新入生歓迎会、5月の運動会ではこの3年間で初めて参観を可能とした中で、皆さんのリーダーシップのもと、東金中学校の団結を創り上げてくれました。6月には、一緒に関西方面への修学旅行に行き、心に残る思い出を作ることができました。本校の合い言葉「あ・じ・み・そ」(あいさつ・じかん・みだしなみ・そうじ)を意識した行動は、本当に立派でした。

7月からは、酷暑の中、総合体育大会やコンクール・公演などに、精一杯努力し、奮闘する姿を後輩たちに見せてくれました。

また、10月の合唱コンクールでは、心のこもった歌声を響かせ、下級生に範を示し、東金中学校の良き伝統と校風に磨きをかけてくれました。心より、敬意と感謝の意を表したいと思います。

在校生には、卒業生が築いてくれた伝統を大切に受け継ぎ、さらに発展させていってほしいと思います。

卒業生の皆さんは、4月からそれぞれの道を歩み始めます。ぜひ、自分の夢や目標に向かって、変化の激しいこれからの時代を生き抜いてほしいと願っています。皆さんの前途は未知ですが素晴らしい可能性を含んでおり、それが皆さんの幸福と共に社会の発展に結びつくものであることを祈ってやみません。そこでこの卒業の時に当たり、二つの話を皆さんの旅立ちへのはなむけにしたいと思います。

第一は「生涯を通して学び続けてほしい」ということです。幕末や明治時代で活躍することになる多くの人を育てた吉田松陰は、こんな風になっています。「人は何故学ぶのか。学ぶのは知識を得るためでも職を得るためでも出世のためでもない。人にものを教えるためでも、尊敬されるためでもない。己のためだ。己を磨くために人は学ぶのだ。」それを聞いた、吉田松陰の下で学んでいた人は、こんな風になっています。「何故学ぶのか? この世の中のために、己がなすべきことは何かを知るために学ぶのです。私はこの国を、日本を守るために学びたい。己を磨き、この国の役に立つ人間になりたい。そのために学びたい。」

「勉強する意味」の一つは、「自分の人生に喜びを見つけるための勉強」です。新たな知識を得て、昨日の自分とは違う、成長した自分に気づいたとき、勉強してよかったな、と感じることができます。もう一つは、「周りの人の人生に喜びをもたらすための勉強」です。皆さんは、これから進学・就職という新しい環境に進んでいきますが、その将来は決して楽なものではありません。現在日本が世界に誇っている経済力・工業生産力も、アジア諸国をはじめとする国々の経済成長やヨーロッパ・アメリカなどの国々との連携強化等、様々な課題が山積している状況下にあります。

国内でも高齢化、情報化、天災、他国の戦争など、多くの突然に発生する問題を抱え、社会の仕組みや変化はますます複雑になっていくでしょう。皆さんはやがてどのような場所においても解決を迫られる、このようなあるいは予測もしなかった困難な問題に直面することと思います。そこでは多くの情報をもとにして必要なものを選択し、判断を下し、行動しなければならない場に、何度か出会わざるをえなくなります。その場で正しく適切な判断を下すためには、可能な限りの判断のための経験や材料や知識を身に付けていなければなりません。そのためにはいつでも可能なかぎり何かを身に付けていこうとする、すなわち生涯にわたって学び続ける気持ちと態度が必要になります。

第二に言いたいことは「常に感謝の気持ちを忘れるな」ということです。全員の進路が決定し、今日卒業証書を手にすることができたのは、皆さん一人一人の努力があったことはもちろんですが、その背後に多くの人たちの力添えと愛情があったことは理解できると思います。ご家族をはじめ皆さんのまわりにいる多くの方々が、大変心を砕いてくださいました。もちろん、中学校へ入学する前にお世話になった方々の存在も忘れてはいけません。心身共に急激に成長し、動揺の激しい青年前期の皆さんの成長を願って、多くの人たちが温かい気持ちと援助の手を直接的、また、間接的に差し伸べてくださったおかげです。これから続く長い人生の中で多くの人々とかかわり、様々な人たちから有形・無形の恩恵を受けて、皆さんは成長し、生き続けていくわけです。自分一人ですでできたのだ、という思い上りの気持ちはその人の成長を止めてしまうこととなります。曹洞宗を開いた道元禅師の教えの中に、「花、紅にして美なりといえども、ひとり開くにあらず。春風来たりて初めて開くなり」という意味深い言葉があります。人間が人生の花を咲かせるのは、自らの努力と共に、それを支え、励ましてくれる多くの人々の存在や環境を認識して、それを生かしていくことが必要だということを書いてあるのです。人は自らの努力と自戒、そして驕らず、感謝の気持ちを持つことで、人生を明るく、素直に、楽しく、苦しいときにも勇気を持って過ごすことができます。自分の特性に自信を持つこと、そして他人の長所を素直に認めること、これが大切だと思います。皆さんがこのようであることを強く願っています。また、これが皆さんを育ててくれた方々への恩返しとなり、幸せな次の時代を築くことにもなるのです。まだまだ言いたいことはたくさんありますが、そろそろお別れの時が来たようです。卒業生の皆さん、どうか今後も自分の成長に心がけ、世の中のどこにいても「あの人がいないと困るな」と言われるような人になってほしいと思います。

令和5年3月10日
東金市立東金中学校長 今井 清仁



左の写真は、本年度の卒業証書をいれたホルダーの左側部分です。今井校長先生直筆の文字を全卒業生分いれていただきました。